発送番号 382738 1/ 発送日 平成15年11月 4日

拒絕查定

特許出願の番号

特願2003-275036

起案日

平成15年10月27日

特許庁審査官

郡山 順

8 5 0 2 2 B 0 0

発明の名称

魚釣具

特許出願人

平垣 實

代理人

加藤 静富(外 2名)

この出願については、平成15年 8月26日付け拒絶理由通知書に記載した理由によって、拒絶をすべきものである。

なお、意見書並びに手続補正書の内容を検討したが、拒絶理由を覆すに足りる 根拠が見いだせない。

備考

・請求項1について

補正により「接続具は、前記収容本体の底部に設けた止め孔へ通して、該収容本体内側を結び目により抜け止めしてなり、・・・ この接続具または上部釣り 糸は、前記蓋体の先端部に穿設した止め孔へ通して、該蓋体内側を結び目により 抜け止めしてなる」点が付加された。

しかしながら、結び目を利用した接続具は特開平7-327563号公報、特開2000-197435号公報(【0005】参照のこと。なお、「キャップ(13)」は(8)の誤記である。)特開昭52-672号公報等に記載されているように周知である。

・請求項2-4について

請求項1の進歩性が否定されるためこの出願は拒絶査定となる。請求項2-4について言及すれば、補正により単一性を満たさなくなってしまった。 特許法第37条第1号で云う「解決しようとする課題」とは出願時に未解決であった課題を云う。また、特許法第37条第2号で云う「主要部」とは解決しようとする課題に対応する新規な事項を云う。

主要発明である請求項1との間に共通する主要部は存在せず、また、共通する解決しようとする課題も存在しない。

なお、請求項3について、「ゆとり」が新たに補正により付加されたが【0055】を参酌しても、ゆとりがなぜ掛かったときの当たり量となるのか不明である。ハリスと道糸を介して仕掛けは1本に連結されており、掛かった場合、ゆとりと関係なく当たりが伝わると思われる。

発送番号 382738 2/E 発送日 平成15年11月 4日

